

逗子の景観まちづくり

瓦版 第八十二号

『見えない方にも伝えたい』

逗子には「やまばとの会」という音訳のボランティアグループがあります。音訳というのは、目の見えない方のために本や雑誌などを声に出して録音し、音声の図書を製作するものです。逗子市の「議会だより」や「広報ずし」の音訳もしています。わたしはまだ始めたばかりの新人ですが、先輩方の中には三十年以上この活動を続



「逗子海岸から」 鎌田 楓

二〇二四年一月十五日 次号は四月発行予定
編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課
協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会
募集 逗子の景観スケッチや六百五十字以内の
景観に関するコラム等を募集しています。

けている大ベテランの方もいらっしやいます。目の見えない方との交流会もあります。目の見えない方のように利用されているかや、目の見えない生活というものがどのようなものかといったお話を伺う機会ができ、自然と目の見えない方へ関心が向くようになりました。街を歩いても、ふと「この風景を目の見えない方に言葉で伝えるとしたらどんなふうに表現するだろう」と考えることもあります。

吉本ばなの『どんぐり姉妹』という小説の中に逗子が出てきます。「逗子というと海のイメージが強いだろうけれど、実は逗子の風景は川でできている」というような文章があります。市内を流れる川のゆるやかなカーブが逗子の風景をつくっているのだと書かれているのです。このゆるやかな川のカーブに沿った町並みは、見えない方にも実際にのんびり歩いていただけたら、体で感じていただけられるかもしれません。川沿いのゆるや

二四九・八六八六
逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.lg.jp



「祭りの思い出」 鎌田 楓

かにカーブする道を海岸まで一緒に歩いて、海に沈む夕日の美しさや、変わっていく空の色をお伝えしたら、どれだけわかっていただけるだろうか、そんなことも音訳を始めてから考えるようになってきました。ただ感じたままを素直にお伝えして、同じ時間を共有するだけでもいいのかもしれません。

目の見えない方が白杖について安心して歩くことのできる町であるといいなと思います。

文 村椿 菜文

まち探検で逗子の魅力を再発見

－イベントのご報告－

逗子市まちづくり景観課では、12月17日（日）に景観まちあるきイベント、「まち探検で逗子の魅力を再発見」を開催しました。当日は28人にご参加いただき、地図と「まちなみデザイン逗子発見カード」を使い、まち探検をしました。所々で逗子の景観スポットの紹介をし、まちなみの歴史を振り返りながら、賑わいある商店街、閑静な住宅街を通り海へ、ゴールの旧藤瀬・脇村邸において発見したことを共有しました。（当日は旧藤瀬・脇村邸一日特別限定公開日でした。）

自然と調和したまちなみや歴史ある建物など、市内には多くの素敵な景観があります。今回、参加者の皆さんそれぞれがまちの魅力を再発見し、又それぞれに気づきがあった様です。
（まちづくり景観課 兼子）



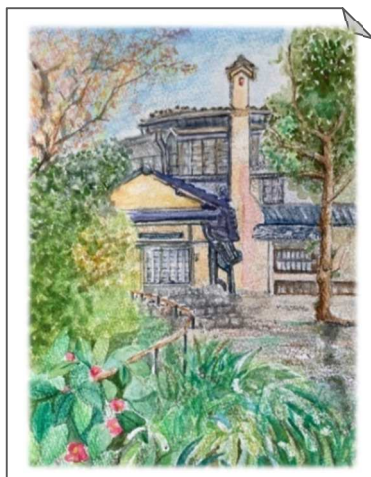
【まちなみデザイン逗子発見カード】



【亀岡八幡宮：まちなみの歴史を振り返る】

旧藤瀬・脇村邸公開

－逗子市 内部一日特別限定公開イベントに参加して－



藤瀬秀子（三井財閥の重役夫人）の別荘が1933年に建てられました。歌人であり茶人である秀子さんは、きっと多くの訪問客を心ゆくまでおもてなしできるこの住まいで、楽しい時をお過ごしだったことでしょう。

数寄屋造りの和風建築に、暖炉やスタンドグラス、飾り棚などのアールデコ様式を巧みに取り入れ、均整の取れた優雅な空間を作り出しておりました。丁寧に調べられた講師の説明に、この建築への熱い思いを感じさせて頂き、貴重な時間となりました。外観からは、二つの可愛い丸窓と玄関から見上げるとお洒落な切り妻瓦葺屋根の暖炉の煙突が目を引きました。後日、お人柄を感じるこの玄関からスケッチさせて頂きました。ボランティアの方々による草木の名札や庭の整備などに多くの温もりも感じ、安らげる居心地の良い所でした。よく散歩に出掛けてくると言う方にもお会いし、愛されている場所であることも実感しました。
（文・絵 田中慶美）

－逗子文化の会 湘南邸園文化祭参加企画のご報告－

逗子文化の会では、11月11日（土）に湘南邸園文化祭参加企画「旧藤瀬・脇村邸公開」イベントを開催しました。当日は邸内の居間に椅子を設置し、C3（シーキューブ）山口貴弘さんがレクチャー。旧藤瀬・脇村邸は三井物産常務取締役であった藤瀬氏の夫人の別荘として建てられた邸宅で、藤瀬夫人である秀子さんについてのお話などでした。ふらりと立ち寄った人も立ち見するほど、みなさん熱心に聞いておられました。その後は内部を自由に見学していただきました。

庭では関東学院大の学生さんによるカフェ。キマグレと名づけられたリヤカーのカフェで、ハンドドリップのコーヒーと手づくりの焼き菓子を振る舞ってくれました。お代はドネーション。少し寒かったので、見学を終えたみなさんも温かいコーヒーを楽しまれたようです。

（逗子文化の会）



【1階居間兼食堂：レクチャーの様子】